

河床変動計算を用いた土砂・洪水氾濫対策に関する 砂防施設配置検討の手引き（案）

目 次

はじめに	1
第1編 概説	
1 基本的事項	
1.1 対象現象	3
1.2 評価手法	6
第2編 施設配置検討	
2 計算準備	
2.1 保全対象の抽出	7
2.2 計画生産土砂量の設定	9
2.3 河床変動計算の準備の概説	10
2.4 河床変動計算実施区間の設定	11
2.5 水・土砂供給地点の設定	12
2.6 河道形状の設定	15
2.7 河床条件の設定	17
2.8 施設の設定	18
3 水供給条件の設定	
3.1 計画降雨（降雨波形・降雨分布）の設定の考え方	20
3.2 計画降雨（降雨波形・降雨分布）の設定	21
3.3 流出解析の実施	22
3.4 入力ハイドログラフの設定	23
4 土砂供給条件の設定	
4.1 粒度分布の設定	24
4.2 供給土砂量の時系列データの設定	25
4.3 施設の効果評価	30
5 河床変動計算の実施	
5.1 河床変動計算の考え方	32

5. 2	計算の実施	33
6	土砂・洪水氾濫解析・被害推定の実施	
6. 1	氾濫開始点の設定	34
6. 2	土砂・洪水氾濫解析・被害推定の実施	34
7	施設配置計画の検討	
7. 1	施設配置計画の検討の考え方	35
7. 2	対象とする保全対象周辺の河床変動への寄与が大きい流域・区間の抽出	36

第3編 再現計算の実施

8	既往災害の再現計算	
8. 1	基本的な考え方	38
8. 2	対象事象の抽出	38
8. 3	再現計算の準備	39
8. 3. 1	情報収集・現象の復元	39
8. 3. 2	計算準備	39
8. 4	再現計算の実施	40
8. 4. 1	実績と計算結果の整合性の検証	40
8. 4. 2	入力条件・解析手法の見直し	41

第4編 施設配置計画の照査

9	施設配置計画の照査	
9. 1	計画規模以下の現象に対する効果	42
9. 2	現況の河道断面における効果	42
9. 3	不確実性の評価	43
9. 3. 1	不確実性の考え方	43
9. 3. 2	降雨分布状況の違いによる影響	43
9. 3. 3	土砂供給条件の違いによる影響	44
9. 3. 4	気候変動等による降雨量の変化の影響	44
9. 3. 5	計算の条件の違いによる影響	45